



情報ビジネスコース

豊田市内の普通科で唯一の「情報活用コース」は、平成19年度から大学進学へとつながるコースとして、高度な情報活用ができるよう、レベルの高いカリキュラムを実践し、平成29年の3月には、第8期生が卒業しました。

そして、平成30年4月からは、「情報ビジネスコース」として、新たに「情報系」「ビジネス系」の二つの専門分野から選択ができるコースに生まれ変わります。

コンセプト

情報ビジネス分野に興味・関心を持つ生徒が、普通科としての学習を基礎基本に置きながら、情報系またはビジネス系を選択し、3年間を通して、課題研究をはじめとするコース科目に取り組み、進学や就職に有利となる資質や能力を十分に身に付ける。情報処理技能検定等の合格も目指す。

コースの特徴

1年生 地元大学等と連携した校外学習、体験授業を取り入れ、情報に関する専門的な基礎知識を得る機会を設けます。

2年生 専門教科の基礎として「情報テクノロジー」を学び、情報処理技能検定等の将来活用できる資格取得を目指します。1年生同様、校外学習を取り入れ、より専門的な知識を得る機会を広げます。また、ホームページ制作などを学ぶ「情報系」とビジネスについて基礎から学ぶ「ビジネス系」に分かれ、それぞれの知識や技能を身に付けます。

3年生 それぞれが研究テーマを設定し、アンケート集計をおこない、情報ビジネスコース1, 2年生に対して研究発表を行います。その後、校外でも「情報ビジネスコース課題発表会」を行います。この発表会を生徒達の力で運営することにより、情報を表現する総合的な力を養います。また「情報系」の生徒は、より専門的に授業を選択して高度なコンピュータの知識や技術を習得します。



様々な資格の取得をサポートします！

情報ビジネスコースでは、様々な資格の取得を授業の中でサポートしています。

たとえば、

- 日本語ワープロ検定
- 情報処理技能検定（表計算）
- P 検（ICT プロフィシエンシー検定）
- 情報処理技術者試験 IT パスポート（国家試験）





①情報活用能力

まずタイピング、コンピュータの基本的な操作、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのオフィスソフトの操作方法を学びます。基本を習得すれば、次は応用として**情報（データ）の適切な加工・編集能力の育成**を目指します。

②問題解決能力

コンピュータは問題解決においてあくまでひとつのツールにすぎず、最適な解決の手法はその場で臨機応変に判断しなければなりません。**問題解決までの手順を自ら考察し、適切な手法を用いて処理できる能力の育成**を目指します。

③プレゼン能力

プレゼンテーションソフトを使い人前で発表する機会がたくさんあり、繰り返し発表することでプレゼンに慣れることができます。**自分の気持ちを正確に、言葉とツールを用いて相手に伝えられる能力の育成**を目指します。



選べる「情報系」「ビジネス系」

「ビジネス系」では商業科目も学ぶことができるようになりました！

情報系

2年生から、「**情報系**」を選んだ生徒は「**情報テクノロジー**」と「**情報と問題解決**」の教科を週5時間勉強します。資格取得とWebページ制作の力を付けます。3年生では、「**課題研究**」と「**ネットワークシステム・情報デザイン**」を週8時間勉強します。自ら課題を調べ、発表することで、自発的・創造的に学ぶ能力を身に付けます。

ビジネス系

2年生から、「**ビジネス系**」を選んだ生徒は「**情報テクノロジー**」と「**ビジネス基礎**」の教科を週5時間勉強します。資格取得をめざし、ビジネスについて学びます。3年生では、「**課題研究**」と「**ビジネス情報**」を週8時間勉強します。情報を生かしたビジネス活動を学びます。

資格対策と進路希望の実現

様々な情報系資格をサポート。周りとは差を付け希望の進路を叶えよう！

様々な資格をサポート

情報ビジネスコースでは、様々な資格・検定の取得を授業の中でサポートしています。毎年、以下の資格・検定を生徒が取得しています。

- ・日本語ワープロ検定（※毎年ほぼ全員が取得）
- ・情報処理技能検定（表計算）（※毎年ほぼ全員が取得）
- ・P検3級（※毎年ほぼ全員が取得）
- ・情報処理技術者試験 ITパスポート（国家試験）

多様な進路希望の実現

情報ビジネスコースでは、生徒の進路希望を実現するために、**多種多様な進学や就職に対応**する校内体制を整えています。一人一人の進路希望を大切にしながら、それぞれにふさわしい将来設計に必要な能力や態度を育てるきめ細かい進路指導を通して、生徒が卒業後、生涯にわたり社会的・職業的に自立し、社会のあらゆる場面で活躍できるよう支援します。

